

令和7年度 人権教育講演会

9/27
(土)

「論語から学ぶ人権」



講師 岡山県青少年教育センター 閑谷学校
次長 徳永 博文 先生

9月27(土)、岡山県青少年センター 閑谷学校の次長 徳永博文先生をお迎えし、人権教育講演会を開催しました。

旧閑谷学校は、350年前に庶民も学べる公立学校として岡山藩主の池田光政によって創建されました。池田光政は国をつくるには、人をつくることであり、人をつくるという事は学問が大切であると考えていました。そして、旧閑谷学校の教育の中心に置かれたのが論語でした。

「論語」は、孔子の弟子たちと孔子のやりとりを弟子がまとめたものです。その中で、『子曰く、衆之を悪むも必ず察し、衆之を好むも必ず察す』を徳永先生が紹介されました。その意味は、「うわさ話から偏見をもち差別につながることもある。ちゃんと自分で確かめ判断することが大切です。」「うわさを信じてはいけない」また、広く知られている、『己の欲せざる所、人に施すこと勿れ』は、『恕』=「思いやり」という言葉とともに解説してくださいました。

「論語」はわたしたちが身につけておくべき道徳や他との健全なつながり方を教えてくれます。どんな人にも、思いやりを忘れることなく接していくことの大切さを再認識させられました。

【参加者の感想】

- ・うわさ話が偏見につながり、それがいじめや差別という行動になることを改めて考えさせられました。
- ・論語は、私たちの生活に深い示唆を与えてくれるものだと気づかされました。



中国の魯国で紀元前 552 年に生まれたと言われています。

